【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】令和3年1月7日(2021.1.7)

【公表番号】特表2019-534029(P2019-534029A)
【公表日】令和1年11月28日(2019.11.28)
【年通号数】公開・登録公報2019-048
【出願番号】特願2019-525738(P2019-525738)
【国際特許分類】
Ｃ１２Ｎ　5/10　(2006.01)
Ｃ１２Ｎ　15/87　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　35/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　31/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　35/02　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　31/14　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　31/20　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　31/16　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　11/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　43/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　35/17　(2015.01)
Ａ６１Ｋ　35/34　(2015.01)
Ａ６１Ｋ　35/407　(2015.01)
Ａ６１Ｋ　35/33　(2015.01)
Ａ６１Ｋ　35/36　(2015.01)
Ａ６１Ｋ　35/30　(2015.01)
Ａ６１Ｋ　35/35　(2015.01)
Ａ６１Ｋ　35/32　(2015.01)
Ａ６１Ｋ　45/00　(2006.01)
Ｃ１２Ｎ　5/0783　(2010.01)
Ｃ１２Ｎ　5/078　(2010.01)
【ＦＩ】
Ｃ１２Ｎ　5/10
Ｃ１２Ｎ　15/87　Ｚ
Ａ６１Ｐ　35/00
Ａ６１Ｐ　31/00
Ａ６１Ｐ　35/02
Ａ６１Ｐ　31/14
Ａ６１Ｐ　31/20
Ａ６１Ｐ　31/16
Ａ６１Ｐ　11/00
Ａ６１Ｐ　43/00　１２１
Ａ６１Ｋ　35/17　Ａ
Ａ６１Ｋ　35/34
Ａ６１Ｋ　35/407
Ａ６１Ｋ　35/33
Ａ６１Ｋ　35/36
Ａ６１Ｋ　35/30
Ａ６１Ｋ　35/35
Ａ６１Ｋ　35/32
Ａ６１Ｋ　45/00

Ｃ１２Ｎ　5/0783　ＺＮＡ
Ｃ１２Ｎ　5/078

【手続補正書】
【提出日】令和2年11月13日(2020.11.13)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
外因性ミトコンドリアを含むナチュラルキラー細胞。
【請求項２】
前記外因性ミトコンドリアが、筋細胞、肝細胞、線維芽細胞、上皮細胞、神経細胞、脂肪細胞、骨細胞、白血球、リンパ球、または粘膜細胞から得られたものである、請求項１に記載のナチュラルキラー細胞。
【請求項３】
前記外因性ミトコンドリアが、ナチュラルキラー細胞１個当たり１～１０３の量で含まれる、請求項１に記載のナチュラルキラー細胞。
【請求項４】
前記外因性ミトコンドリアおよび前記ナチュラルキラー細胞が混合された組成物を遠心分離することにより、前記外因性ミトコンドリアが前記ナチュラルキラー細胞中に送達されている、請求項１に記載のナチュラルキラー細胞。
【請求項５】
請求項１に記載のナチュラルキラー細胞を有効成分として含む、がんまたは感染性疾患を治療するための医薬組成物。
【請求項６】
前記がんが、胃がん、肝臓がん、肺がん、結腸直腸がん、乳がん、前立腺がん、卵巣がん、膵臓がん、子宮頸がん、甲状腺がん、喉頭がん、急性骨髄性白血病、脳腫瘍、神経芽細胞腫、網膜芽細胞腫、頭頸部がん、唾液腺がん、およびリンパ腫からなる群から選択される、請求項５に記載の医薬組成物。
【請求項７】
前記感染性疾患が、Ｂ型肝炎、Ｃ型肝炎、ヒトパピローマウイルス（ＨＰＶ）感染症、サイトメガロウイルス感染症、ウイルス性呼吸器疾患、およびインフルエンザからなる群から選択される、請求項５に記載の医薬組成物。
【請求項８】
前記組成物が、液体または冷凍の形態である、請求項５に記載の医薬組成物。
【請求項９】
疾患を予防または治療するための医薬組成物の製造のための請求項１に記載のナチュラルキラー細胞の使用。
【請求項１０】
前記組成物が、静脈内、皮下、点眼、腹腔内、および筋内経路からなる群から選択される経路により投与される、請求項９に記載の使用。
【請求項１１】
前記組成物が、前記疾患を予防または治療する効果を有する別の薬物または生理活性物質と組み合わせて投与される、請求項９に記載の使用。
【請求項１２】
外因性ミトコンドリアを含む末梢血単核細胞。
【請求項１３】

前記外因性ミトコンドリアが、筋細胞、肝細胞、線維芽細胞、上皮細胞、神経細胞、脂肪細胞、骨細胞、白血球、リンパ球、または粘膜細胞から得られたものである、請求項１２に記載の末梢血単核細胞。
【請求項１４】
前記外因性ミトコンドリアが、ナチュラルキラー細胞１個当たり１～１０３の量で含まれる、請求項１２に記載の末梢血単核細胞。
【請求項１５】
請求項１２に記載の末梢血単核細胞を含む、がんまたは感染性疾患を治療するための医薬組成物。
【請求項１６】
前記がんが、胃がん、肝臓がん、肺がん、結腸直腸がん、乳がん、前立腺がん、卵巣がん、膵臓がん、子宮頸がん、甲状腺がん、喉頭がん、急性骨髄性白血病、脳腫瘍、神経芽細胞腫、網膜芽細胞腫、頭頸部がん、唾液腺がん、およびリンパ腫からなる群から選択される、請求項１５に記載の医薬組成物。
【請求項１７】
前記感染性疾患が、Ｂ型肝炎、Ｃ型肝炎、ヒトパピローマウイルス（ＨＰＶ）感染症、サイトメガロウイルス感染症、ウイルス性呼吸器疾患、およびインフルエンザからなる群から選択される、請求項１５に記載の医薬組成物。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６５】
図１０から、Ｋ５６２に対する細胞傷害性が、送達された外因性ミトコンドリアの量（０．００５、０．０５および０．５μｇ）に伴って上昇することが確認された。
以下に、当初の特許請求の範囲に記載していた発明を付記する。
［１］　外因性ミトコンドリアを含むナチュラルキラー細胞。
［２］　前記外因性ミトコンドリアが、筋細胞、肝細胞、線維芽細胞、上皮細胞、神経細胞、脂肪細胞、骨細胞、白血球、リンパ球、または粘膜細胞から得られたものである、［１］に記載のナチュラルキラー細胞。
［３］　前記外因性ミトコンドリアが、ナチュラルキラー細胞１個当たり１～１０３の量で含まれる、［１］に記載のナチュラルキラー細胞。
［４］　前記外因性ミトコンドリアおよび前記ナチュラルキラー細胞が混合された組成物を遠心分離することにより、前記外因性ミトコンドリアが前記ナチュラルキラー細胞中に送達されている、［１］に記載のナチュラルキラー細胞。
［５］　［１］に記載のナチュラルキラー細胞を有効成分として含む、がんまたは感染性疾患を治療するための医薬組成物。
［６］　前記がんが、胃がん、肝臓がん、肺がん、結腸直腸がん、乳がん、前立腺がん、卵巣がん、膵臓がん、子宮頸がん、甲状腺がん、喉頭がん、急性骨髄性白血病、脳腫瘍、神経芽細胞腫、網膜芽細胞腫、頭頸部がん、唾液腺がん、およびリンパ腫からなる群から選択される、［５］に記載の医薬組成物。
［７］　前記感染性疾患が、Ｂ型肝炎、Ｃ型肝炎、ヒトパピローマウイルス（ＨＰＶ）感染症、サイトメガロウイルス感染症、ウイルス性呼吸器疾患、およびインフルエンザからなる群から選択される、［５］に記載の医薬組成物。
［８］　前記組成物が、液体または冷凍の形態である、［５］に記載の医薬組成物。
［９］　［１］に記載のナチュラルキラー細胞を有効成分として含む医薬組成物を、それを必要とする対象に投与する工程を含む、疾患を予防または治療する方法。
［１０］　前記組成物が、静脈内、皮下、点眼、腹腔内、および筋内経路からなる群から選択される経路により投与される、［９］に記載の方法。

［１１］　前記方法が、前記細胞と組み合わせて、前記疾患を予防または治療する効果を有する別の薬物または生理活性物質を投与することを含む、［９］に記載の方法。
［１２］　外因性ミトコンドリアを含む末梢血単核細胞。
［１３］　前記外因性ミトコンドリアが、筋細胞、肝細胞、線維芽細胞、上皮細胞、神経細胞、脂肪細胞、骨細胞、白血球、リンパ球、または粘膜細胞から得られたものである、［１２］に記載の末梢血単核細胞。
［１４］　前記外因性ミトコンドリアが、ナチュラルキラー細胞１個当たり１～１０３の量で含まれる、［１２］に記載の末梢血単核細胞。
［１５］　［１２］に記載の末梢血単核細胞を含む、がんまたは感染性疾患を治療するための医薬組成物。
［１６］　前記がんが、胃がん、肝臓がん、肺がん、結腸直腸がん、乳がん、前立腺がん、卵巣がん、膵臓がん、子宮頸がん、甲状腺がん、喉頭がん、急性骨髄性白血病、脳腫瘍、神経芽細胞腫、網膜芽細胞腫、頭頸部がん、唾液腺がん、およびリンパ腫からなる群から選択される、［１５］に記載の医薬組成物。
［１７］　前記感染性疾患が、Ｂ型肝炎、Ｃ型肝炎、ヒトパピローマウイルス（ＨＰＶ）感染症、サイトメガロウイルス感染症、ウイルス性呼吸器疾患、およびインフルエンザからなる群から選択される、［１５］に記載の医薬組成物。